

## 平成26年度第1回島根県水産振興審議会概要

【日 時】平成26年11月5日（水） 13:45～15:45

【場 所】松江市鹿島町恵曇518-2 恵曇集会所会議室  
松江市鹿島町恵曇530-10 島根県水産技術センター内水面浅海部浅海グループ

【出席委員】原委員、青山委員、福島委員、金川委員、高尾委員、保永委員、野津（久）委員、杉原委員

【県出席者】石黒農林水産部長、河原農林水産部次長、松尾水産課長、角水産しまね振興室長、来間水産しまね振興室調整監、福島浜田水産事務所長、竹森隠岐支庁水産局長、石田水産技術センター内水面浅海部長、永岡農林水産総務課管理監ほか関係職員

### 【審議概要】

1. 開会 事務局より開会
2. あいさつ 石黒部長
3. 新任委員紹介 事務局より紹介
4. 日程説明 事務局より説明
5. 議事

#### （1）会長の選任

島根大学生物資源科学部講師の保永委員を会長に選出

#### （2）会長職務代理者の指名

保永会長が漁業協同組合 JF しまね専務理事の中尾委員を指名

#### （3）栽培漁業基本計画について

#### （4）出雲の沿岸漁業活性化PJ、藻類養殖振興PJの取組状況について

（3）（4）について、県側から説明。主な意見、質疑は下記のとおり。

○栽培漁業基本計画は5カ年の計画だが、例えば今年のように有害赤潮が発生してアワビやサザエがへい死するなどの不測の事態が発生した場合に、緊急的に放流を増やすといった対応は可能か。

→ 放流数量は目標値であり、その時の状況に応じて柔軟に対応可能。

○栽培漁業の対象種を選定する上でブランド開発という視点はないか。

→ 栽培漁業基本計画では資源増殖の観点から放流する魚種や数量を定めている。ブランド化については、県の活性化計画の中で取り組んでいる。

○種苗を放流するだけでなく、養殖で活用することはできないか。

→ 島根県は、地形や水温などが魚類養殖に適しておらず、藻類などの無給餌養殖を進めている。

○放流するサイズを小さくして、数量を増やした方がコスト削減できるのではないか。

→ 種苗生産施設の生産能力に限りがあり、現状以上に数量は増やせないのが実情。

○赤貝（サルボウガイ）の販路開拓について、数量限定となっても地域の特産品としての販売や食べ方の普及など、生協と協力することができるのではないか。

○中海での漁業にあたって、貧酸素水塊などの水質が問題となっており、環境を回復させる取組が必要。

また、こういった環境問題への関心が薄れてきているため、もう少し県民への啓発が必要ではないか。  
○サルボウガイを地域の特産品としてPRするために、例えば「出雲赤貝」などと名付けて販売することはできないか。

→ 食品表示についてはJAS法の規定に従う必要がある。サルボウガイを赤貝と呼ぶことが浸透している地域であれば問題ないが、それ以外の地域ではむやみに赤貝とは表記できない。

○中海で養殖するにあたっては貧酸素や硫化水素の影響を受けることがあるが、他県では陸上養殖をしている事例もあるので参考にしようか。

→ 採算性や養殖規模等に課題があると思うが、情報を集めて検討したい。

○子どもの頃に美味しい魚を食べ慣れていれば成長してからも食べ続けるし、そういった記憶がふるさとへの思いにつながる。保育所で給食を出している栄養士や調理師であっても、地元の漁業や水産物のことを知らないことが多いので、積極的に情報提供願いたい。

## 6. 現地調査等

(1) 島根県水産技術センター内水面浅海部浅海グループの施設見学

7. あいさつ 河原次長

8. 閉会